



ピース! Peace

Team Shiroyama

Peace 飛び交う、楽しい学校をつくろう!

HP <https://www.nagasaki-city.ed.jp/shiroyama-e/>

令和 6 年 10 月 15 日

学校だより 第 9 号

校長 宮田 幸治

小体会、交歓会に出場する皆さんの活躍を祈って!

10月16日(水)に第62回長崎小学校体育大会が、10月29日(火)に特別支援学級交歓会が開催されます。城山小学校からも代表として6年生と特別支援学級の子供たちが出場します。9月中旬ごろから練習に取り組み、練習が最後となりました。10月8日(火)には、「小体会出場選手、交歓会出場選手を励ます会」が催されました。選手の決意表明に対して、在校生からの励ましの声があり、手作りの応援横断幕の贈呈があり、とても心温まる時間でした。5年生が応援団を結成し、全校へ動画配信や集合しての練習でやり方を教えるなど、全校が一丸となった取組となりました。

会の終わりに、出場する子供たちへ向けて次のこととお話ししました。

- 小体会や交歓会は、普段できないような経験ができることが大きなねらいであり、市内の小学生が互いに競い合いながら交流を深める場です。交流を深めるとは、他の学校の友達と仲良く言葉を交わすだけでなく、最後までボールを追いかけている姿やルールをきちんと守ってフェアプレーを心掛けている姿、自分のチームだけではなくて相手チームにも温かい言葉を掛けている、応援している姿などを見つけ、認めることも大切です。
- 校長先生は、これまで高校野球の甲子園、高校インターハイをはじめ、各種目の全国大会に行き、各県の強豪チームの様子をたくさん見てきました。その強豪チームに共通していることは、①使う道具や靴などがきちんと並んでいて、試合後はチーム全員で協力して片づけをしている ②自分のチームを応援してくれている方はもちろんのこと、会場で出会う方々に大きな声で気持ちの良いあいさつをしている ③宿泊するホテルでも、時間を守り、礼儀正しく行動している ④自分勝手な言動をすることなく、監督やコーチ、キャプテン、マネージャーの尊敬の念をもって皆がチームとしてまとまっている、と大きくは4つのことでした。
- 真のスポーツ選手は、競技の力が高いだけではなく、人として尊敬できる人だと感じました。小体会や交歓会の練習や本番を通じて、そのような人間力も磨き、皆が幸せを感じる学年、学校づくりへとつなげていってください。それが、大会に出場した大きな財産となることでしょう。

城山小学校では、「Peace 飛び交う、楽しい学校」とするために、普段からそのような姿が見られるよう期待されているところです。学校生活の中で自分の考えをしっかりと主張することも大切ですが、小体会、交歓会の練習から大会本番を通じて「チームで動くとは？」ということを感じて学び、大会後の大きな成長につなげていってほしいと願っています。

「叱り上手のテクニック」

先輩校長からの教え！
最終回です。

『叱りのテクニック』の最後は『意で励ます』をご紹介します。『意』とは『思い』のことです。情の場面で子供は一瞬、恐怖や萎縮を経験し、その目や耳、心を閉ざしかけました。しかし、次の知の場面での穏やかな言葉によってそれらを次第に開きました。最後は、大人（教師・親）の思いや願いを伝えます。ここでは、何が原因だったのかや何であんなことをしたのかなど、不必要な過去の振り返りはしません。「前にもゆうたろが！」や「何でそげんことばすっとか！」、「何べん言われたら気のすむとか！」などとは、絶対に言ってはいけません。どれも子供が答えられない言葉（質問）だとは思いませんか。叱っている側の大人は前のことを引きずってしまうことがありますが、これでは台無しです。『意で励ます』は、その子のあるべき姿やあってほしい姿、大人の願いを熱く語ることなのです。その子にどれだけの能力があり、期待され、どれほど信じられ、愛されているかを伝え、これからどうすれば挽回できるのかを共に考え、新しい一歩を約束しあうのです。未来を語る時間と言ってもいいでしょう。

子供は、ついさっきまで大人の顔に怯え後悔し、罪人のような時間と空間にありました。しかし、今は認められ褒められています。どうすれば挽回できるかを一緒になって探してくれる大人がいます。自分が今まで以上に成長するチャンスに遭遇しているという幸せな実感を味わうことすらできるのです。ここまでできる大人が『叱り上手』だと私は考えます。『情・知・意』の順番が大切で、乱れ、落ち着き、意を決する演技力が必要です。そして、これは叱ることとて人が成長するドラマなのです。

『叱り上手のテクニック』をもつ多くの先輩教師は、「普段は、一緒に遊んでくれて優しい先生だけど、悪いことをしたらきちんと叱ってくれる。」とか「怒ったら（叱ったら）怖いけど私たちのことを認めてくれるから好き。」などと子供に言われる教師でした。悪いことをした子供を困らせ懲らしめるのではなく、その子のもつ可能性を肯定し、未来を創造する。こんな叱り方を共に目指していきましょう。